

かかみがはらの埋文

各務原市埋蔵文化財調査センターだより 第2号



伝・蘇我倉山田石川麻呂の墓と宮塚遺跡

ごあいさつ

日本の成りたちのころ

稲作が始まったことによって日本の社会にどのような変化が起こってきたかを調べたり研究したりすることは、大変興味深いことです。私はなぜかこのことに若いころから強い興味と関心があるのです。日本人の原流を探求したり、私たち現代人の遠い遠い祖先の人たちは、どのような暮らしをしていたのかを探るのは極めておもしろいことのひとつです。

古代日本人のロマンを探る思いもします。鏡、玉、剣などの祭りの道具。さらに鉄製の武器、よろい、かぶと、かんむり、馬具、つば、かめ、高坏などがそれを物語ってくれます。私たちの遠い祖先の人たちの生活をうかがい知ることが出来ます。このようなすばらしい物を残してくれたことに感謝せずにはおれません。そしてこの各務野がその宝庫の里であることはとてもすばらしい誇りです。

教育長 水野 定之



施設紹介

写真室：面積 33.00㎡

設備 撮影台×1 レフパネル×2
 ライト（トップ、メイン、フロント）
 背景（電動巻取式）×3
 アンブレラ×2 ライトスタンド×4
 カメラ×10 ドライキャビネット×2

発掘調査報告書掲載用の出土遺物写真を撮影するスタジオです。暗室などの設備も充実しており、専門的な撮影が可能です。

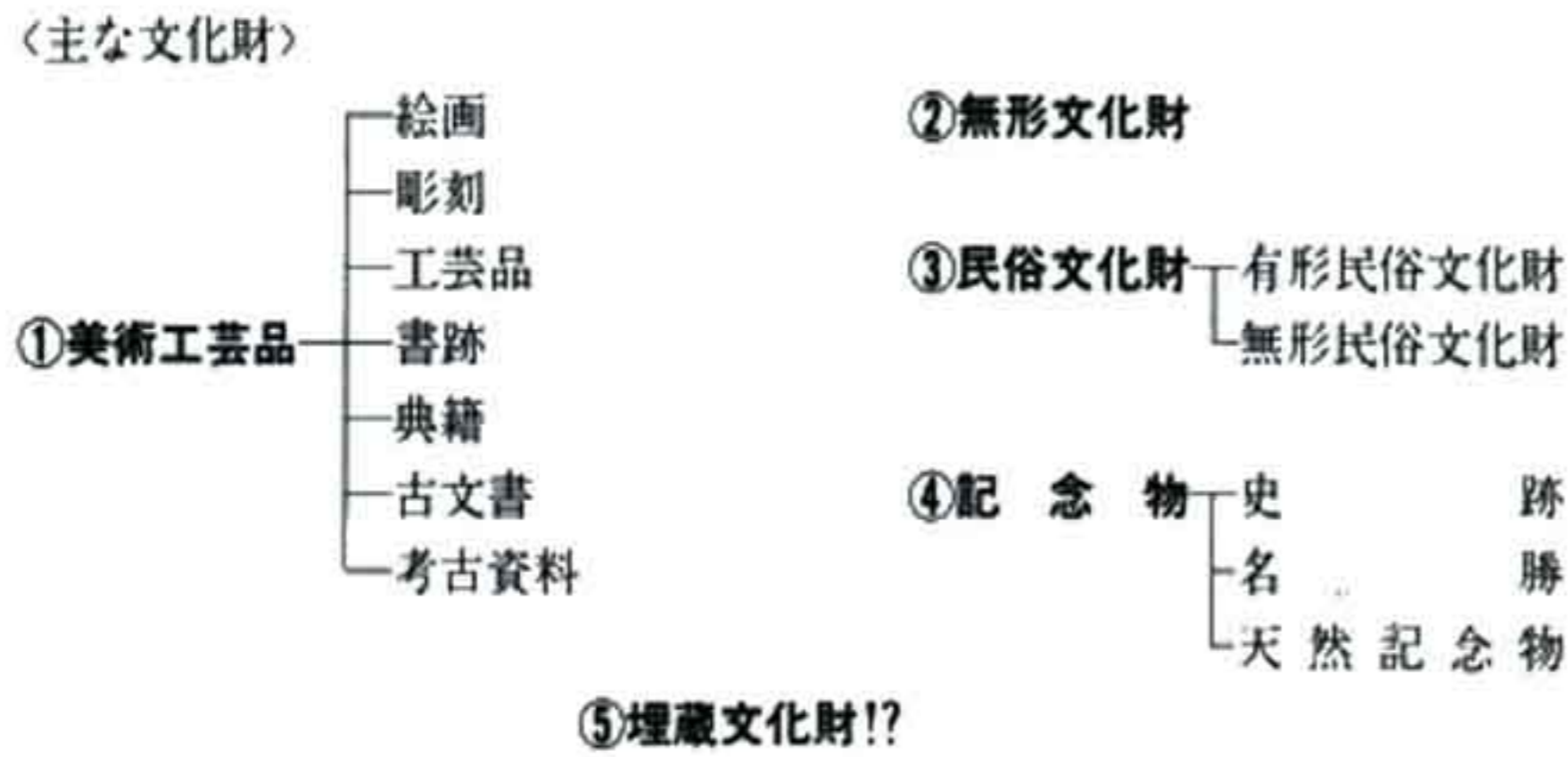


埋蔵文化財包蔵地確認

埋蔵文化財の価値

埋蔵文化財とはいったい何でしょうか。なぜ大切なのでしょうか。

文化財という言葉は広く普及していますが、ここで再度、下図の分類を見て整理してみましょう。



文化財は私たちの文化的財産であり、日々の暮らしの中で大切な役割を果たしているのです。

文化財は…

- ①過去の文化や歴史を学ぶ手掛かりであり、歴史の生き証人です。
- ②進んで私たちが将来を展望するための思考や行動の基盤を成すものです。
- ③それ自体が自然と一体になって歴史的な環境を形成し、そこで暮らす人々の生き方を特色づける役割を果たしています。

埋蔵文化財も、こうした意義をもつ文化財の仲間なのです。埋蔵+文化財ということは、土地に埋蔵されている文化財を総称します。しかし、土中に埋もれていることによって特異な性質や問題を秘めています。

さて、すばらしい点は…

- ①埋蔵されている状態は歴史の真実を秘め、適切な分析により科学的な情報を引き出すことができます。
- ②記録史料をあまりもたない民衆の歴史の足跡を尋ねる場合の手掛かりとなります。

しかし、困った点は…

- ③地中からその姿が出現して初めて構造や価値、あるいは意義が明らかになるという点で、普段の私たちの目には映りにくい特性をもちます。
- ④広域に多数分布しており、これらを保護することは開発の妨げになってしまいます。

各務原市埋蔵文化財調査センターでは、このような埋蔵文化財の重要性を尊重し、積極的な調査研究普及活動を進めながら、開発との調整をいっそう円滑に図ることができるよう努力を続けています。ここに報告する埋蔵文化財包蔵地確認は、その最も基本的な業務です。

右の表1は、平成4年度および平成5年度において各務原市教育委員会に申請された包蔵地確認の件数を表しています。

- A：市開発審査会にかかる事業
- B：砂利採取事業
- C：AおよびBに含まれない一般の開発
- D：役所内の事業

と分類した場合、各々の件数は表2のようになります。

平成4年度に比べ、平成5年度は全体の申請件数で見ると32件の増加、比率で表せば36%の増加ということになります。これはかなりの増加と考えられます。個々にみまると、特にAについては、全体の $\frac{3}{4}$ にあたる24件の増加がみられ、申請件数が昨年度の2倍以上となっています。また、Cについても9件の増加がみられ、景気にも影響されているとは考えられますが、これは事業者の方々と庁内各部課の、ご理解とご協力によるものと思います。この先、埋蔵文化財保護と開発との間にある諸々の問題が改善されることが期待で

きます。

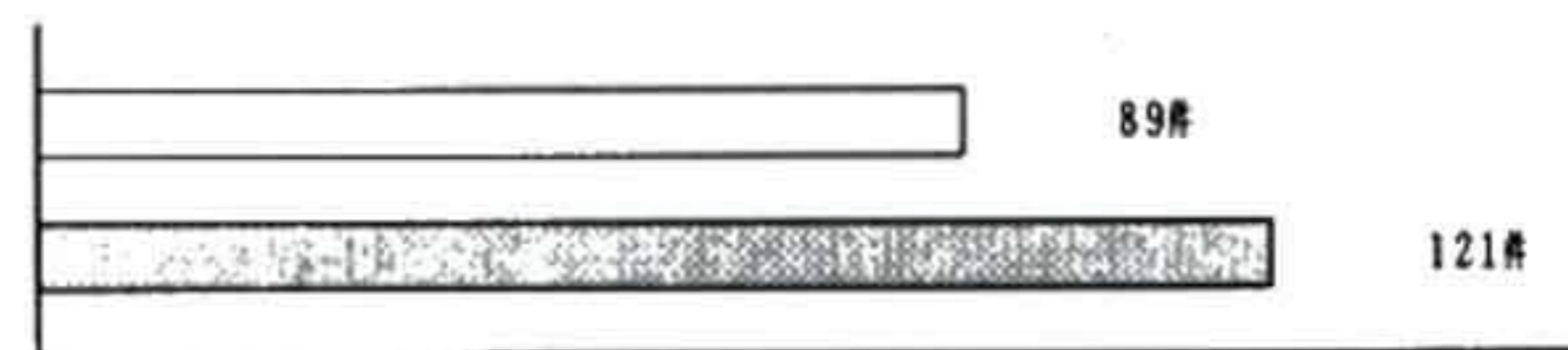


表1 埋蔵文化財包蔵地確認申請件数

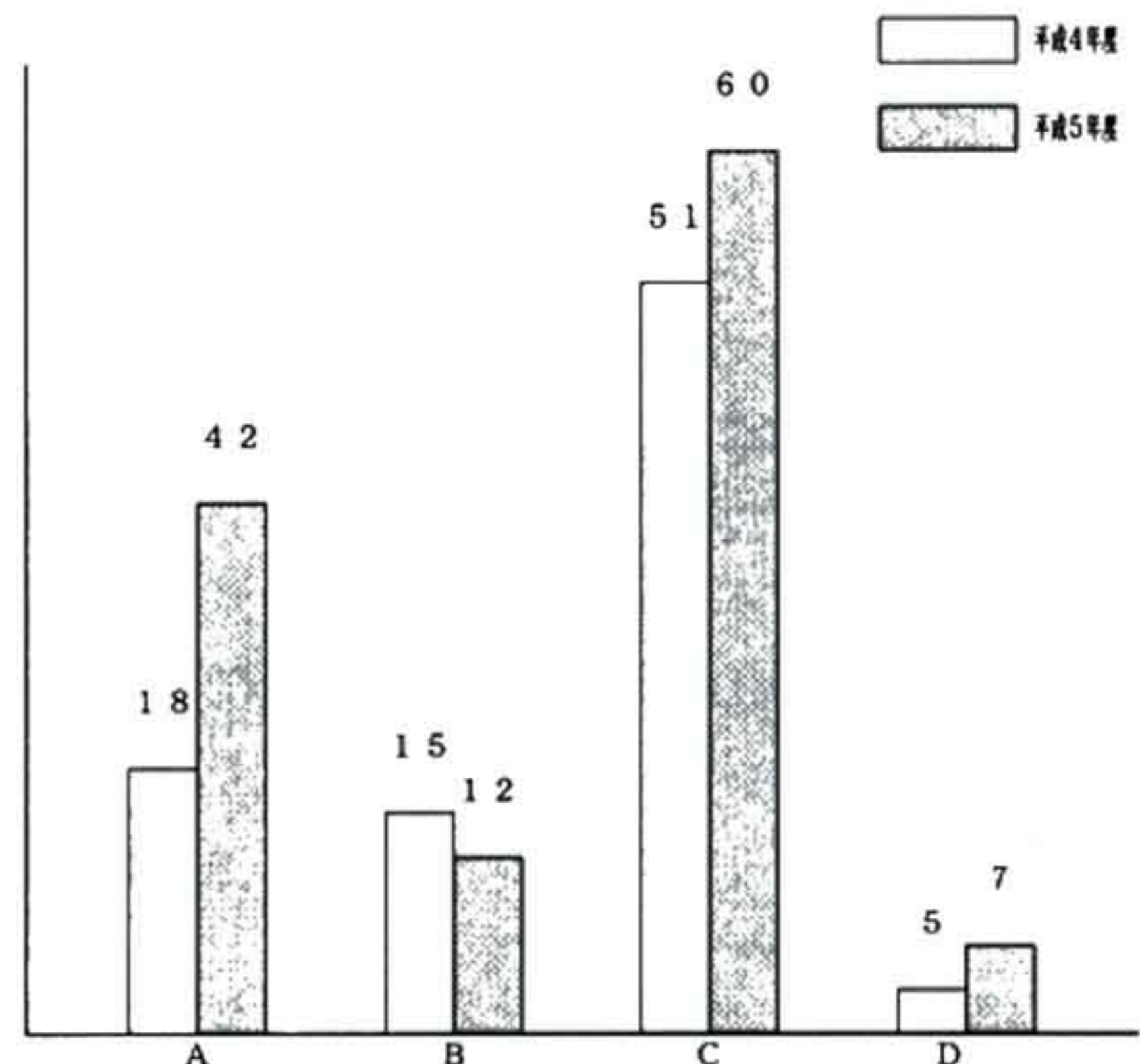


表2 類別申請件数



試掘調査と立会調査

試掘調査の分析

平成5年度に実施した埋蔵文化財試掘調査は12件です。いずれも開発申請地に埋蔵文化財所在の可能性が高い場合、重機（バックホー）を使用して溝（トレンチ）を掘削し、遺構や遺物の埋没状況を調べました。

試掘調査の結果をまとめると、今のところ次の4つのケースに分類できます。

1. もとは遺跡があったが土地改良や畑の耕作によって大部分が破壊されてしまっている。
2. 表面に多数の遺物が散布しているが、他の場所か

ら運ばれてきた耕作土の中に偶然含まれていたものでその土地には関係ない。

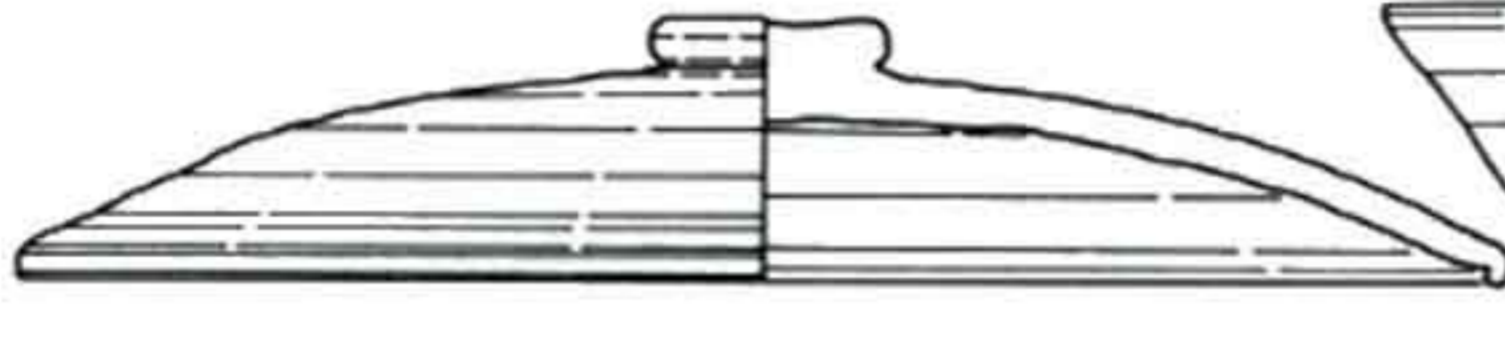
3. 実態が不明な穴や溝が極めて疎に検出され、遺物も皆無に近い。
4. 遺構や遺物が多数検出され良好な状態で埋没している。

他にこれらのケースが重複して複雑な状況になっていることもあります。試掘調査では、その土地が遺跡であるかどうかだけでなく、遺跡の性格や評価、また遺跡の残り方等、様々な角度で分析を行います。

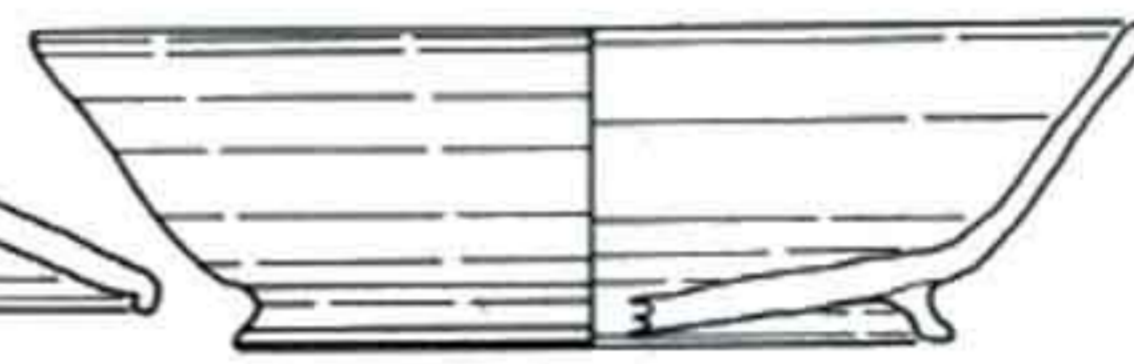
以下に本年度の試掘調査状況のお知らせと、出土遺物の簡単な紹介を行います。



弥生土器（弥生時代前期）鶴沼町1丁目出土
「水神平式」と呼ばれる様式の鏃です。表面には二枚貝等の貝殻を用いた「条痕文」という文様が施され、特に波状の「鳳上げ文」が特徴です。



須恵器（奈良時代8世紀中頃）森原田町2丁目出土
「平山」と呼ばれるもので、文字通り「平」の蓋として使用されたものです。市内の山地部で大量生産されたもので、「登り窯」で焼かれたものです。



須恵器（奈良時代8世紀中頃）森原田町2丁目出土
「有台環」と呼ばれるもので、底に高台が付いているのが特徴です。食器として使用されたもので、左側のような蓋がセットになります。



山茶碗（鎌倉時代14世紀前半）鶴沼町4丁目出土
「山茶碗」と呼ばれる焼き物の小皿です。底の部分には、ロクロ台から切り離すときに付いた糸の痕跡が見られます。S=1/4

平成5年度 埋蔵文化財試掘調査一覧表

遺跡名	申請地住所	開発目的	開発面積	実施日	主要遺構	主要遺物	回答・指示事項	所見備考
糸里遺構推定地	蘇原赤羽根町3丁目49-52	砂利採取	26,250㎡	4/13	溝状遺構1基(時代不定)	出土遺物なし	工事中に遺構・遺物が発見された場合、速やかな届出を指示。	地表下70cmで黄色粘土層に達し湧水する。
糸里遺構推定地	蘇原吉野町5丁目397番	砂利採取	5,200㎡	6/4	土坑3基(時代不定)	出土遺物なし	工事中に遺構・遺物が発見された場合、速やかな届出を指示。	地表下40~50cmで砂利層に達する。
遺物散布地	鶴沼真名越町3丁目6878番	砂利採取	2,450㎡	6/11	溝状遺構1基(時代不定) 土坑1基(時代不定)	山茶碗片	工事中に遺構・遺物が発見された場合、速やかな届出を指示。	耕作土中に含まれる多数の遺物は移動したものの。
丸子遺跡の範囲内	鶴沼大伊木町6丁目87	ガリンスタンド新築	970㎡	7/2	検出遺構なし	出土遺物なし	工事中に遺構・遺物が発見された場合、速やかな届出を指示。	地表に散布する少数の遺物は移動したものの。
梶野遺跡の範囲内	那加南野町1丁目75	分譲住宅新築	365㎡	7/3	検出遺構なし	出土遺物なし	工事中に遺構・遺物が発見された場合、速やかな届出を指示。	付近は埋没谷で地盤は軟弱。湧水あり。
防風林遺跡の範囲内	鶴沼朝日町1丁目130-1	工場新築	1,250㎡	7/6	土坑2基(時代不定) pit1基(時代不定)	弥生土器2点	工事中に遺構・遺物が発見された場合、速やかな届出を指示。	西方へ傾斜する自然地形。西端の地表下50cmで遺物が出土。
花園遺跡の範囲内	蘇原花園町4丁目36-87	ガリンスタンド新築	1,430㎡	7/23	検出遺構なし	出土遺物なし	工事中に遺構・遺物が発見された場合、速やかな届出を指示。	一部は人工的に埋立てが行われ自然地形が改変されている。
野田古墳群の範囲内	蘇原東島町1丁目81	土地売買、資材置場造成	550㎡	8/28・10/2	竪穴住居址1基(奈良時代) 溝1基・土坑1基・pit2基	須恵器片12点	土地購入者に周知、盛り土保存。	トラクターの使用により遺構の上層が大きく削平されている。
吉兵衛新田遺跡の範囲内	蘇原花園町4丁目53	軽量鉄骨共同住宅新築	1,320㎡	9/3・2/10	溝状遺構4基・土坑3基 pit3基(いずれも時代不定)	須恵器片16点(大半は耕作土中)	慎重工事。工事中に発見された場合、速やかな届出を指示。	土地改良により大きく削平され、客土中に遺物が包含される。
新加納船荷遺跡の範囲内	那加西那加町33	既存建物解体、土地売買、駐車場舗装	300㎡	9/25	検出遺構なし	出土遺物なし	工事中に遺構・遺物が発見された場合、速やかな届出を指示。	商店街開発の際に人工的に改変されている。
古市堀遺跡の範囲内	鶴沼南町4丁目186-1・186-2	店舗付き鉄骨共同住宅新築	580㎡	11/9	溝状遺構2基(近世) 竪穴状土坑4基(中世~近世)	カワラケ・山茶碗・陶器類多量出土。	保護についての事前協議。原因者負担において発掘調査実施。	4年度内に現場作業完了。成果については別頁に掲載。
荒子古墳群・平蔵寺跡の範囲内	蘇原熊田町2丁目65	軽量鉄骨共同住宅新築	465㎡	12/16	溝状遺構4基(奈良時代) 他に竪穴状土坑10数基	須恵器片21点(大半は耕作土中)	基礎工事の際に立会調査。他部は盛り土保存。	盛木の農圃であったために掘り起こしが難しい。

平成5年度 埋蔵文化財立会調査一覧表

遺跡名	申請地住所	開発目的	開発面積	実施日	主要遺構	主要遺物	回答・指示事項	所見備考
中世山城跡推定地	三井山町地内(山頂)	農政課三井山整備事業	25㎡	4/5	検出遺構なし	出土遺物なし	展望台・植栽・歩道工事について認可。現状保存。	盛り土による人工的な造成地である可能性が高まる。
山田寺跡の範囲内	蘇原寺島町1・2丁目地内	下水道建設下水道管埋設工事	***㎡	10/29~11/5	瓦堀め9箇所	平瓦・丸瓦多数	工事が広域に渡るため、遺物発見の際の通知と保管を要請。	1丁目24番地の大神宮西接道路で瓦が多量出土。
猿尾堤の本林両裾部	前渡東町(浄化センター公園内)	猿尾堤横断歩道橋設置工事	40㎡	1/11	検出遺構なし	出土遺物なし	適切な現況復旧を指示。	過去に調査済みの箇所へ脚柱を埋設。

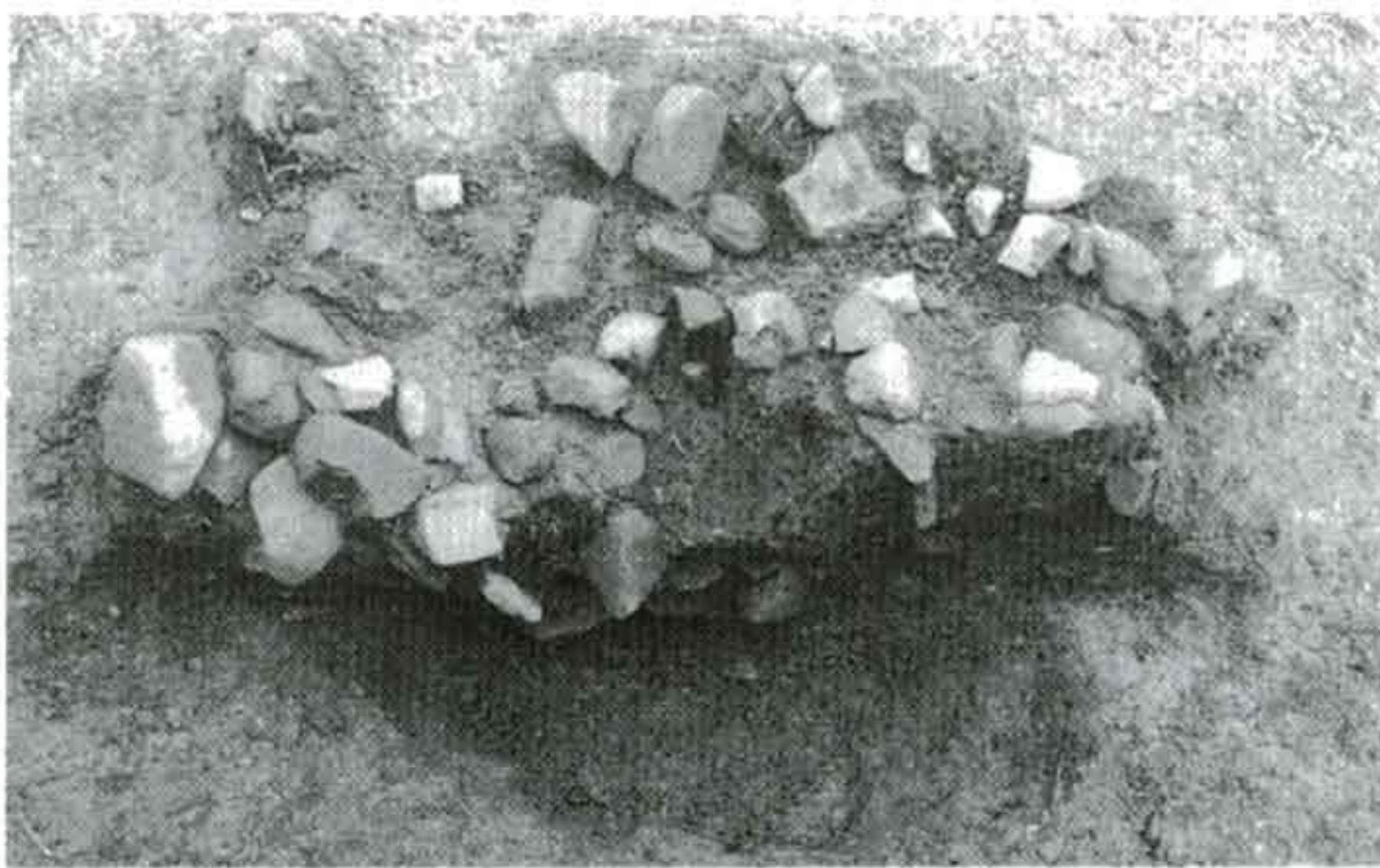


遺跡発掘調査

各務車洞遺跡 発掘調査

- ・遺跡所在地 各務原市各務字車洞
- ・開発主体者 各務原市
- ・調査対象面積 約1,500㎡
- ・調査期間 平成5年6月8日から12月28日

この各務車洞遺跡周辺は各務原市のパークシティ構想に基づく花木公園（仮称）の建設が予定されています。その中で建築物の建設予定部分において、昨年度試掘調査を行ったところ、今から約9,000年前の縄文時



代早期に属する押型文土器が出土し、新たな遺跡の発見となりました。そして約1,500㎡を対象に記録保存のため発掘調査を行いました。

梅雨から夏にかけての例年になく長雨に悩まされた発掘調査では試掘調査によって押型文土器が出土した黒褐色土層の検出から始めました。この土層は縄文時代の人々が生活を営んだ痕跡のある面と思われるもので、山形文や凹の楕円文の入った押型文土器の破片やスクレイパーや剥片・石核など多くの石器が出土しました。ここから出土した山形の押型文土器は、吉城郡古川町の沢遺跡や長野県の樋沢遺跡から出土したものと同類のもので帯状の山形文が縦横に入ったものです。

遺構としては人為的に石を集めた集石遺構が6基確認されました。焼石や炭化物を含んでいることから、食料の調理などに使われた可能性が考えられます。またそのうち3基は、ほぼ円形の掘り込みを持った集石土坑とよばれるものでした。

11月14日に行った現地説明会では交通の不便さにもかかわらず91名もの参加者がありました。

北山遺跡C地区 発掘調査

- ・遺跡所在地 各務原市蘇原北山町4丁目・須衛1丁目
- ・開発主体者 各務原市
- ・調査対象面積 400㎡
- ・調査期間 平成5年9月1日から10月30日

蘇北330号線という幹線道路の工事を行う際に発見された遺跡の一つです。道路沿線に計3箇所の遺跡が確認され、A・B・C地区へと順に発掘調査が行われました。

今回調査したC地区は、切り通しの上の崖縁に残されていた遺跡で、発掘調査により縄文時代・古墳時代・室町時代の遺物や遺構が検出されました。

〈縄文時代〉粘土に植物繊維を混ぜて焼いた土器の破片や、石を加工して刃を付けた搔器や、石器を剥ぎ取る元になる石核等が出土しました。これらは約7,000年前の縄文時代早期に属するものと考えられます。

〈古墳時代〉発掘区のすぐ北側に大きな古墳(円墳)があります。古墳は発掘せずにそのまま残されますが、それに関係すると思われる須恵器や土師器の破片が多数出土しました。古墳は横穴式ですので、何回も遺体の追葬が行われたり、供養に関する祀りごとが催され

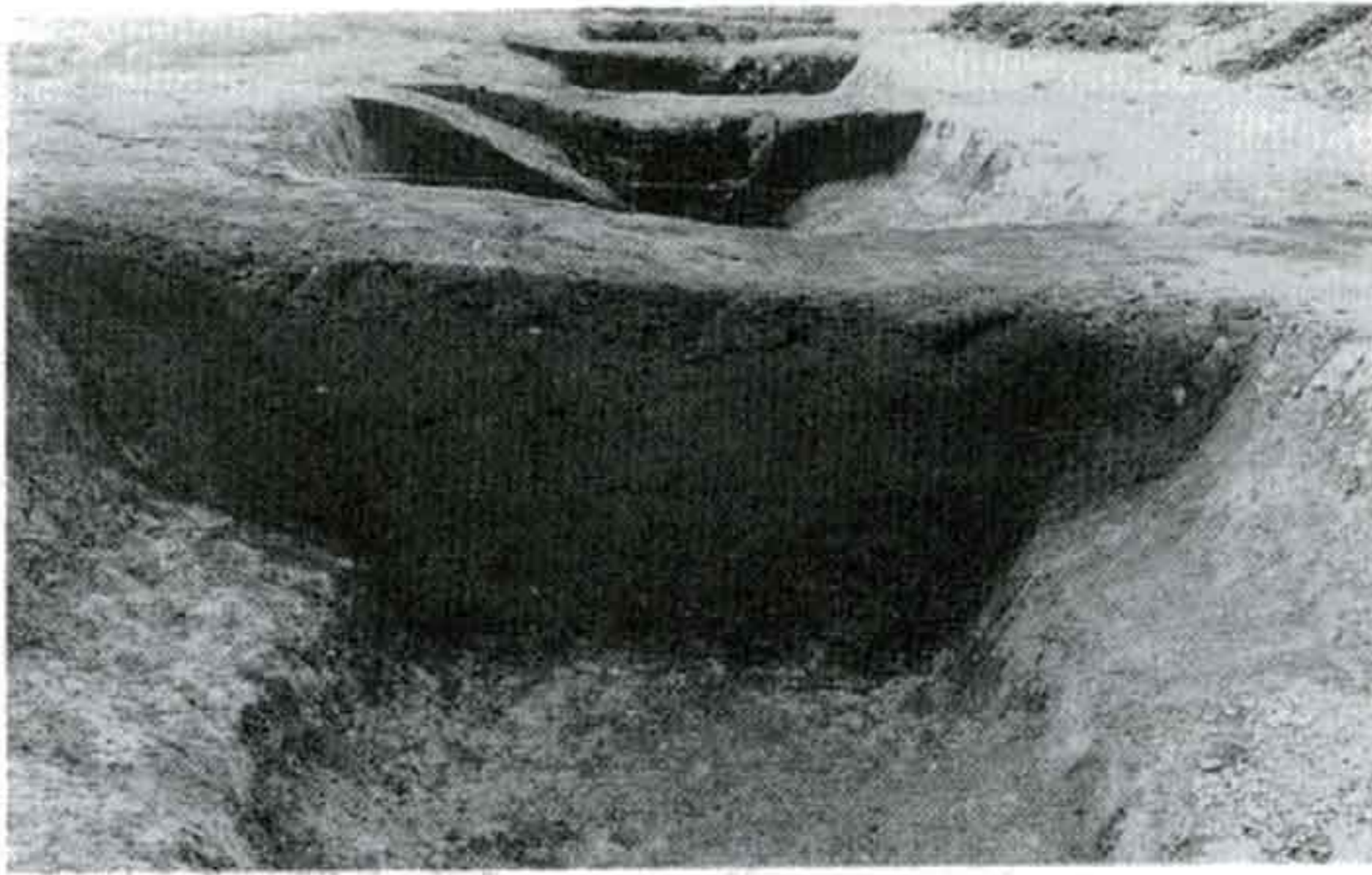
たはずです。出土した土器類は、これらの行為に関係するものかもしれません。7世紀のものと思われます。〈室町時代〉積石塚と呼ばれる中世の「塚」が調査されました。文字通り拳大の石ころを山のように積み上げたもので、峠の一番高いところに造られていたようです。地元には「石拾い伝説」が残されており、昔の人々が峠を越すたびに石を少しずつ運び上げていったと言われています。その真相は定かではありませんが、積石塚から見下ろす村落の平安を祈念する意味などを込めた、山岳信仰色の強い性格をもつ構築物と考えられています。





宮塚遺跡 発掘調査

- ・遺跡所在地 各務原市蘇原宮塚町2丁目地内
 - ・開発主体者 (有)森建材
 - ・調査期間 平成5年12月2日～平成6年3月31日
- 砂利採取事業にともなう緊急発掘調査として実施されました。昭和40年代に行われた土地改良事業のため、遺跡はほとんどが削平され、遺構も深い部分が残存しているだけでした。土地改良前の資料によれば、遺跡は後背湿地の中であって、岐阜市岩滝から南に向けて舌状にのびた微高地上に立地します。今回の調査区域



の北側には市指定文化財である伝・蘇我倉山田石川麻呂の墓(宮塚古墳)が存在します。当初、発掘調査にさきがけて行われた試掘調査は、宮塚古墳に関する遺構の確認を主な目的として行われましたが、弥生時代の溝状遺構を検出し、発掘調査に至りました。(埋文日より創刊号参照)

発掘調査では弥生時代の溝状遺構の他に、旧石器時代から近世まで、断続的にこの地に人々の生活が営まれた様子が検出されました。

<旧石器時代>

調査区西端で2点のナイフ形石器を出土しました。遺跡の東を流れる小河川(間無下川)の流域の低位段丘上には、宮塚遺跡の対岸に位置する宮代遺跡をはじめとしていくつかの旧石器時代遺跡が確認されています。

今回見つかったナイフ形石器は、約2万年前にさかのぼるものと考えられます。

2点のナイフ形石器以外にも、弥生時代の溝の埋土から旧石器時代のものと考えられる石器がいくつか発見されています。

<弥生時代>

弥生時代前期～中期の溝状遺構が10条検出されました。このうち、幅約1m・深さ約50cmの規模の大きなものは弥生時代の集落の最も大きな特徴である環濠の

可能性も考えられます。溝状遺構は大きく弥生時代前期と中期の2時期に分けられます。

弥生時代前期の溝状遺構は、発掘区域の北に向けて湾曲し、東海地方では最も古い部類に属する弥生土器(遠賀川系土器)の他、縄文土器の伝統をひく条痕文系土器、太形蛤刃石斧や偏平片刃石斧といった大陸系磨製石器も出土しました。

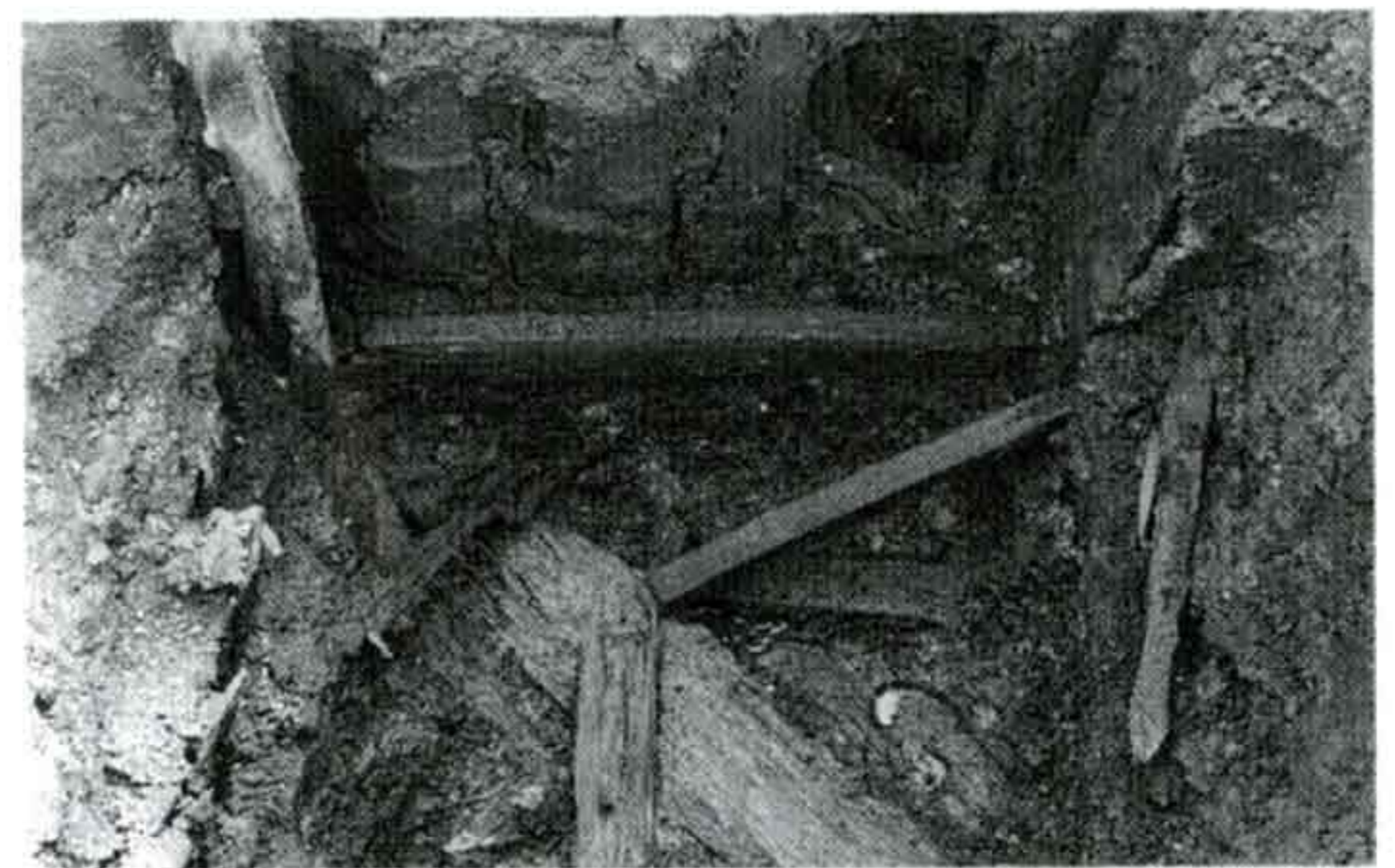
弥生時代中期の溝状遺構は、遺跡の立地する微高地を取り囲むように存在し、いったん掘り抜いた溝を改めて埋め直し、溝を渡る橋状になっている部分が検出されています。溝からは弥生時代中期の土器や、石器類が出土しました。

<中世以降>

中世の土師質土器(かわらけ)を多量に含む土坑の他、井戸、戦国時代のものと思われる溝状遺構が検出されました。井戸は井戸枠が残存しており、木桶の底板とみられる木製品が出土しています。また、木皮で綴じた桶のタガと思われる木製品が性格不明の土坑から見つかっており、貴重な資料となりました。

戦国時代の溝状遺構は調査区の中央部を東西に走り、東西の端は北へ直角に折れるコーナーとなっています。

この溝とコーナーを揃えるように北側に小溝が並んでいることから、こうした溝の一群が屋敷の区画溝としてつくられたものである可能性も考えられます。東の一部で見られる掘り残しによる溝の中断部分は出入口のような機能をもっていたのかもしれませんが。



発掘調査によって、旧石器時代・弥生時代前期から中期にかけて・中世・戦国時代と、これまで各務原市では資料が乏しかった各時代のまとまった資料が得られました。また東海地方においても良好な資料となり、3月5日に行われた現地説明会には県内外から多くの参加者があり、注目を集めました。

鶉沼古市場遺跡A地区 発掘調査

- ・遺跡所在地 各務原市鶉沼南町4丁目186-1 2
- ・開発主体者 宮崎松枝・宮崎全司
- ・調査対象面積 約482㎡
- ・調査期間 平成6年1月25日から3月31日

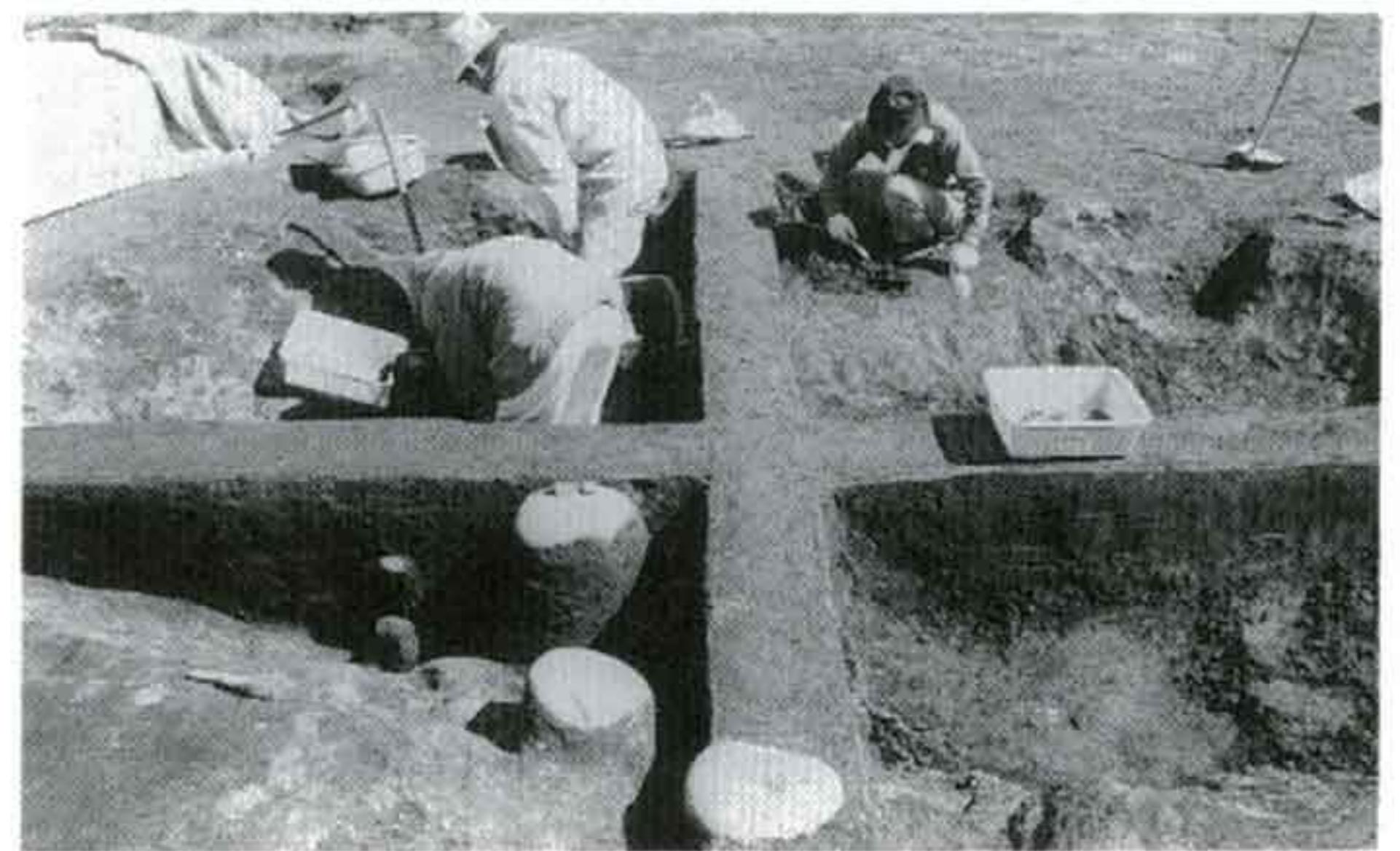
鶉沼古市場遺跡は大安寺川東岸の鶉沼南町周辺に広がる遺跡で、過去の分布調査によって縄文時代から近世までの遺物の散布地として知られていました。今回その遺跡の範囲内にマンションが建設されることになり、現地踏査と試掘調査を行ったところ鎌倉から室町時代頃の山茶碗、土師質土器（かわらけ）等の遺物や溝状、土坑状の遺構が多数発見されました。協議の結果、開発主体者の協力によって、記録保存のための発掘調査を行うことになりました。

発掘調査はマンションを建設するにあたって掘削がおよぶ部分約482㎡を対象に平成6年1月25日から3月31日まで約2ヶ月かけて行いました。

その結果13世紀後半から14世紀前半頃のものと思われる大きな溝状遺構が2条、鍛冶工房と思われる掘り込みが2基、河原石を組み上げて造った石組遺構が2基のほか多数の土坑やピットが検出されました。土坑

の中には山茶碗やかわらけがまとまって出土しているものもあり、当時の人々の生活の一端を知る上での貴重な資料といえます。また建物の火災によるものか、土が焼けていたり炭化材が見られる部分も見つかりました。

遺物については中世の土器や陶器、鉄製品などのほか弥生時代に属する土器の破片や、矢じり等の石器も多数見られ、同じ場所に弥生時代の集落が存在していたことを推測させますが、溝を造るなどといった中世の大規模な開発によってもはや原形を留めていませんでした。



整理作業

太田古窯跡

各務原市ゴミ処理施設建設用地の造成工事に伴い、平成4年度に発掘調査の実施された、須衛字稲田に所在する奈良時代の須恵器窯跡です。須恵器を中心に陶馬、獣足などコンテナ60箱分の遺物が出土しています。

本年度は出土遺物の水洗・注記・接合・実測を行いました。また、整理の過程で「美濃国」刻印の入った須恵器の破片が見つかり、話題となりました。

各務東山遺跡

各務東町5丁目に所在する、奈良時代から平安時代にかけての須恵器と灰釉陶器の窯の遺跡で、工業用地造成工事に伴い、平成4年度に発掘調査が実施され、コンテナ200箱分の遺物が出土しました。

出土遺物が多量のため3ヶ年で行われている整理作業の1年目。本年度は水洗・注記・接合を行いました。

須衛・持田遺跡群

東山ニュータウン造成事業に伴い、昭和60年から平成2年にかけて発掘調査が実施された、縄文時代から

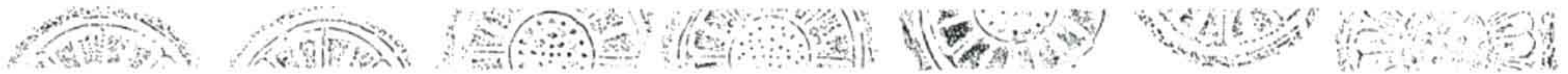
室町時代の遺跡で、土器、石器のほか室町時代の懸け仏が出土しています。

本年度はコンテナ1200箱を数える出土遺物のうち、数万点にのぼる縄文時代の石器について、個々の分類、鑑定および原稿執筆を、愛知女子短期大学非常勤講師齊藤基生氏に委託しました。また、発掘調査報告書の刊行促進のため、須恵器・灰釉陶器については実測図化を写真実測という方法で業者に委託しました。



寒洞古窯跡群

ゴルフ場コース変更工事に伴い、昭和58年に発掘調査の実施された、各務字北山に所在する奈良時代末か



ら平安時代の須恵器窯跡です。

出土遺物の量がコンテナ 458 箱分と多量であることと発掘調査報告書の刊行促進のため、本年度は、復元が終了した遺物の実測を、須衛・持田遺跡と同じく写真実測を業者に委託しました。

天狗谷遺跡

昭和59年から昭和60年にかけて発掘調査が実施された須衛天狗谷地区に所在する遺跡で、古墳および奈良、平安時代の窯跡などが発見されています。現在は炉畑遺跡について第2の遺跡公園として、窯2基、古墳1基が整備保存されています。

本年度は、コンテナ70箱分の遺物の水洗・台帳作成を行いました。

御坊山南遺跡群

昭和63年から平成3年にかけて発掘調査が実施された、各務東町1丁目に所在する遺跡で、古墳時代から、鎌倉時代にかけての遺構、遺物が見つっています。

本年度は、コンテナ700箱分の遺物の水洗・台帳作成を行いました。



前洞遺跡A地区

平成3年度、那加前洞新町4丁目における店舗建設に伴い、発掘調査の実施された遺跡です。奈良時代末から平安時代にかけての集落遺跡で、土器のほか刀子などの鉄製品も出土しています。

本年度は発掘調査報告書（各務原市文化財調査報告書第14号）を刊行しました。B5版、本文171頁、写真図版62頁。

埋文ボイス

「美濃国」刻印須恵器 太田1号古窯跡室内整理

平成4年度、須衛字稲田の新ゴミ処理施設建設用地造成工事に伴い事前発掘調査を行った、太田1号古窯跡の室内整理作業を行いました。

太田1号古窯跡は8世紀初頭（奈良時代）の須恵器とよばれる焼きものを焼いた窯跡群で発掘調査によって1万点を超える大量の須恵器が出土しました。平成5年度の5月より始めた室内整理作業では遺物の水洗い・注記・接合・実測を行いました。遺物水洗の過程では、灰原（灰や不良品の捨て場）から出土した膨大な須恵器片の中から1点のみ「美濃国」の刻印が入ったのが見つかりました。この刻印須恵器の器種は無台坏とよばれる小鉢のようなもので内側の底の部分に刻印されていました。

この「美濃国」刻印須恵器が焼かれていた窯として有名なものに太田古窯跡より約4km西の岐阜市にある老洞・朝倉古窯跡群（国指定史跡）があります。そのうち老洞古窯跡では発掘調査によって、1,200点余りもの刻印須恵器が見つっています。各務原市内でも三井遺跡や前洞遺跡A地区の発掘調査などで見つっていますが、窯跡の調査で出土したのは今回が初めて

のことです。

老洞古窯跡群から太田古窯跡へとつながる山地は美濃須衛古窯跡群といわれるように、古代における全国有数の大窯業地帯であり、現在も200基以上の須恵器窯跡が存在するといわれています。この大窯跡群は国の管理のもとに運営されていた官窯と考えられており、ここで焼かれた須恵器は調貢品として中央や、地方の官衙に運ばれました。中でも美濃国刻印須恵器は奈良県の平城宮跡や中央との関連の深い三重県の斎王宮跡からも見つかり、刻印須恵器が特殊なものであったことが推測されます。

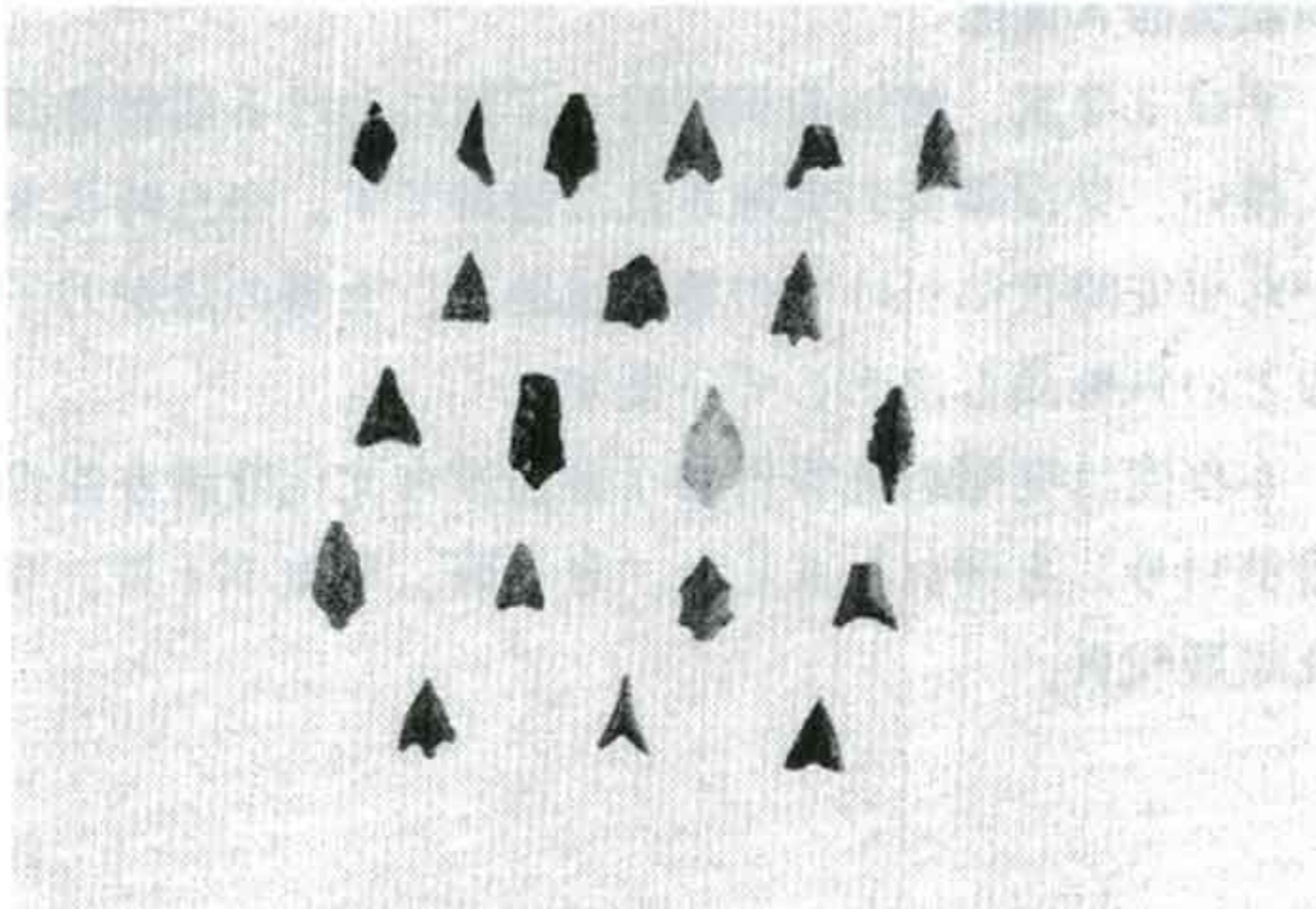




遺跡詳細分布調査

各務原市は、その豊かな自然を背景として、古くから人々の生活が営まれている土地であり、市内にはそうした先人の開拓の歴史が埋蔵文化財として今も数多く残されています。しかしながら近年の大規模な開発の増加により、貴重な文化遺産である埋蔵文化財の保護が困難になっています。

こうした現状を踏まえ、各務原市教育委員会では、開発と文化財保護のバランスを図るため、国の補助を



受け、平成5年度より5カ年計画で市内における埋蔵文化財の詳細な分布調査を行っています。遺跡詳細分布調査と呼ばれるこの調査では、現地での土器や石器等の遺物採集調査を中心に、聞き取り調査や地理学的調査等を行い、市内の埋蔵文化財の所在・性格などの把握を行っています。

平成5年度は鶴沼地区の現地遺物採集調査を行い、石鏃22点、打製石斧多数など1万点を超える土器や石器を採取しました。

調査の結果、鶴沼西町1丁目で弥生時代の集落と考えられる遺跡を発見したほか、数ヵ所で新たに遺物の散布が確認されました。しかしその一方で、周知の遺跡とされる範囲内で遺物散布が見られない部分もあり、平成8年度に予定されている地理学的調査と併せて遺跡の範囲やその性格について更に考察を行っていきます。

平成6年度は蘇原地区において遺物採取調査を予定しています。

普及啓発活動

第3回埋蔵文化財保護普及啓発事業「埋文フェスタ」

本年度は、講演会のみだけでなく、内容にあわせた展示、及び市民参加の体験実習を企画し、2日間にわたる事業「埋文フェスタ」を開催しました。

講演会

平成5年8月1日、各務原市立中央図書館4階視聴覚ホールにおいて、広く一般を対象として開催しました。天候にも恵まれ、約200名の参加がありました。午前中はセンター職員による発表、午後からは講師をお招きしてご講演をいただきました。

第1部 センター業務紹介

各務原市埋蔵文化財調査センターも設立3年目を迎え、その活動も形になりつつあります。ここで職員自らもセンターの業務を再確認し、かつ一般にも知っていただき、ご理解いただくことを目的とし、発掘調査業務の紹介を中心に行いました。

第2部 研究発表

昨年度行った発掘調査のうち、坊の塚古墳の周濠範囲確認調査について、スライドを使用しながら、古墳の周囲に確認された濠の規模、構造などの研究成果を発表しました。

第3部 講演会「各務原市の古墳時代」

講師 三重大学人文学部教授
八賀 晋氏



各務原市域における古墳時代の勢力関係とその動向について、坊の塚古墳のような大規模古墳、また大牧1号古墳に代表される特異な古墳の分布とその推定時期から解説していただきました。

また、当市にも出土例のある古代の銅鏡について、その製作技法などをスライドを使用して説明していただきました。「おもしろくまた判りやすく興味をもてた」と、聴講者にも好評でした。

速報展及び企画展

「埋文フェスタ」の開催にあわせ、展示収蔵庫の遺物の展示替えを行いました。

速報展は、単に最近の市内遺跡調査の成果を報告するだけにとどまらず、出土した遺物にかかわる考古学の用語・技法などを「わかるかなコーナー」を設定することによって、おもしろく展示解説し、見に来た人が興味をもてるように工夫しました。

企画展は、講演会の内容にあわせて「各務原市の古墳時代」と題した展示を行い、耳と目で古墳を身近なものと感じられるようにしました。また、小企画展

「発掘調査のどうぐ」と題して、写真パネル及び使用する代表的な道具を展示し、現場作業から出土遺物の整理作業までの流れが見ただけでわかるように展示解説しました。

特別企画展

「埋文フェスタ」の開催期間中に限り、市内の古墳から出土した金銀に彩られた鉄製の馬具、刀などを特別に展示しました。普段は特別収蔵庫に安置されていて見るできない遺物とあって、見学者の目も一層集中していました。



体験実習



平成5年7月31日、埋蔵文化財調査センター整理室及び荷解き室において、センター初の試み、市民を対象とした土器の水洗及び拓本の体験実習を行いました。どちらも大変人気があり、特に拓本実習は参加受付開始後一週間で、ほぼ定員20名の枠が埋まりました。

「見た目に不鮮明なものが、拓本によりはっきりすることのおもしろさを知ることができて良かった」

「普段はTVでしか見られないから、貴重な体験ができて良かった」、「次回も参加したい」

など、参加していただいた市民の方々の評判もよく、

また実際に土器に触れることができ、埋蔵文化財をより身近に感じるようになったという人も多かったようです。

発掘調査現地説明会

本年度は北山遺跡C地区、車洞遺跡、宮塚遺跡の3か所の現場において、現地説明会を行いました。回を重ねる度に参加者が増え、市民の埋蔵文化財に対する関心が高まっていることを実感しました。





現場の声

現在、各務原市埋蔵文化財調査センターでは、20名以上の方々が市内遺跡から出土した土器や石器の整理作業にあたっています。

今回はその中でもベテランの5人の方々にお話をうかがいました。

遺物の整理作業では、泥のついた土器や石器を丁寧に水洗いし、細かい破片をつなぎ合わせて元の形に復元したり、詳細な図面を作成します。地味な仕事ですが、「破片と言えど、貴重な文化財ですので取扱いには神経を使います」と語る作業員さんの言葉通り、埋蔵文化財のもつ価値を引き出す重要な作業です。

神経を使う作業ですが、その一方で「各時代の土器に触れ、まさに歴史を肌で実感」することができ、励みになっているそうです。「道具の形は変わっても、

同じように人々が生きてきたことがわかり、感慨深いですね」と、仕事をこえた「生きがい」の一つとして取り組んでいただいている様子がうかがえます。ご自身の生活にも「新聞等に発表される各地の発掘調査の記事が耳に残るようになった」り、「簡単に捨てていたような古くなった家具や道具を改めて見直し、再利用を心がけるようになった」という変化もあったようです。

仕事を通じて郷土の歴史を実感してきた方々だけに、「遺跡の現地説明会や講演会、各種のイベントなどをもっと増やして、市民の方々が気軽に参加でき、郷土の歴史を肌で触れることができるようにしてほしい」との注文がありました。



整理室のみなさん
左から
鈴木素子さん
金田恵子さん
浅井茂美さん
勝又喜久子さん
榊原恵子さん

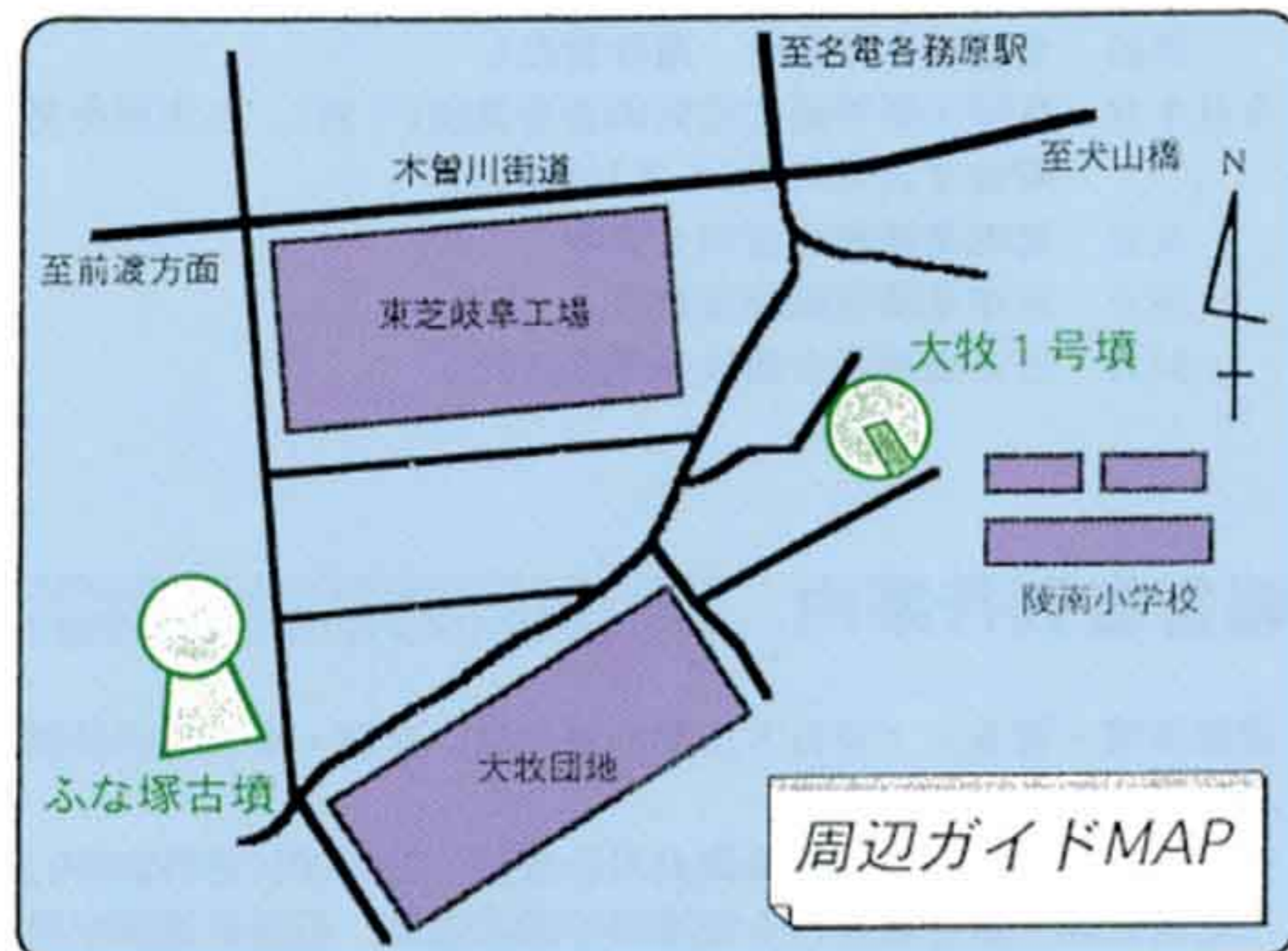
センター日誌抄

- | | |
|--|--|
| <p>4月16日 各務原市立陵南小学校6年生(79名)展示収蔵庫見学
27日 各務原市立尾崎小学校(102名)展示収蔵庫見学
5月18日 (財)瀬戸市埋蔵文化財センター(2名)資料実見
6月8日 車洞遺跡発掘調査開始
15日 遺跡詳細分布調査開始
16日 各務原市立鶴沼第三小学校3年生(132名)展示収蔵庫見学
25日 瑞浪陶磁資料館専門委員(8名)研修
26日 岐阜県立岐山高等学校郷土研究部(14名)施設見学
7月1日 富山大学考古学研究室(30名)施設見学
2日 各務原市立鶴沼第三小学校3年生(135名)展示収蔵庫見学
7日 (財)千葉県文化財センター(1名)研修視察
13日 名古屋市博物館 梶山 勝氏
15日 各務原市小学校長会(16名)施設見学
21日 各務原市立那加中学校 五島先生他生徒4名
23日 不破郡垂井町生き生きライフ推進協議会委員、事務局職員(20名)視察
31日 「埋文フェスタ 第1日目」
整理室見学・体験学習実施
31日 岐阜放送「あなたの街から」撮影</p> | <p>8月1日 「埋文フェスタ 第2日目」
第3回埋蔵文化財保護普及啓発講演会開催
17日 新潟県教育庁文化行政課派遣朝日村教育委員会(2名)視察
19日 岐阜県下教育長会(15名)視察
20日 美濃教育事務所(16名)視察
21日 名古屋市見晴台考古資料館(1名)見学
26日 愛知県稲沢市文化財審議会、市史編纂委員会(15名)研修
27日 奈良市教育委員会(1名)視察
9月1日 (財)瀬戸市埋蔵文化財センター(3名)資料貸出し
1日 北山遺跡C地区発掘調査開始
9日 揖斐郡池田町読書サークル協議会(16名)見学
16日 美濃市立美濃小学校PTA(40名)見学
10月15日 各務原市立那加第二小学校家庭教育学級(16名)施設見学
19日 加茂郡川辺町立川辺小学校6年生(43名)展示収蔵庫見学
20日 緑陽中家庭教育学級(15名)広報「動く市民教室」
24日 北山遺跡C地区現地説明会実施
26日 山県郡美山町立葛原小学校4・5・6年(42名)</p> |
|--|--|



埋蔵文化財探訪 第2回 鵜沼地区の古墳 PartII

前回は鵜沼地区の古墳Part Iとして、旧中山道沿いの3つの古墳にスポットを当ててお送りしましたが、今回は木曾川に近い鵜沼地区南部にある2つの古墳を中心に探訪してみたいと思います。



各務原市の南端部、木曾川北岸をはしる木曾川街道(県道大野・鵜沼線)とよばれる道があります。その道を前渡方面から東へと進み、鵜沼大伊木町辺りに入ると右手に東芝電気の大きな工場があります。その工場を越えたすぐの信号のある交差点を右に曲がると市立陵南小学校があります。陵南小学校へ行ってみましょう。今回探訪する1つめの古墳は、陵南小学校の正門前左手にある大牧1号墳です。この大牧1号墳は、市立陵南小学校の建設工事に伴い、記録保存のため昭和57年から58年にかけて発掘調査が行われました。



大牧1号墳

調査の結果、横穴式石室をもつ直径約30mの大きな円墳で、今から約1400年前にあたる6世紀末のものであることがわかりました。石室を奥へ入った玄室と呼ばれる死者を葬った部屋には岐阜県内でも貴重な「家形石棺」がほぼ完全な形で見つかりました。また、馬

具や装飾品などの副葬品も多数出土し、この時期の古墳の特色を知る上で貴重な古墳です。この古墳は、現在復元整備され市の指定史跡として保存されています。

大牧1号墳から南西に約300m行ったところに、ふな塚古墳があります。看板や標識もないため見過ごしそうですが、二段に築成された前方後円墳です。築造当時の大きさは後世に削平を受けわかりませんが、現存での大きさは全長40m、後円部推定直径30m、高さ4m、前方部は幅24m、高さ5mを測ります。後円部にいたっては石室を含む大部分が土採りによって壊されており、大きな石室の石材のみが付近に残されています。副葬品も数多くあったようですが、「杏葉」とよばれる馬具が伝わるのみです。しかし、この古墳には驚くべき事実が秘められていたのです。昭和59年の



ふな塚古墳航空写真(発掘調査時)

発掘調査では前方部にも石室のあることが確認され、2つの石室をもった珍しい古墳であることが判明したのです。西向きに開口した横穴式の石室は天井石以外を河原石で丹念に積み上げたもので、石室奥の玄室には家形石棺がありましたが、天井石の崩落によって粉々に割れていました。副葬品は須恵器や鉄製品のほかガラス玉などの装飾品がありました。築造時期は大牧1号墳とほぼ同時期にあたります。

大牧1号・ふな塚古墳を中心としたこの地域にはかつて80基を超える古墳が存在したといわれています。このことは6世紀末における木曾川北岸の強大な勢力の存在、また数多くの古墳は対岸の地域にその存在を強烈にアピールしていたと推測されます。そのほとんどがすでに消滅し、当時の面影は見受けられませんが、周辺の畑地にたくさん散布している甕などの須恵器の破片は、それらの古墳の副葬品だったものでしょう。